

## 令和3年度 小金井市立緑中学校 授業改善推進プラン

教科	実態と課題	具体的な取り組み
国語	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の高い生徒が多く見られる一方、「基本的な学力」が身に付いていない生徒もおり、その格差が大きい。</li> <li>・自分の意見や考えを持つことはできるが、相手に伝えること（話すこと・書くこと）が苦手な生徒が多い。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを分かりやすく相手に伝える力（話すこと・書くこと）を身に付けさせる。</li> <li>・集団での学習活動を通して主体的、対話的な学びを行い、個の能力を高める工夫を図る。</li> <li>・文章中から、理由や根拠を明確にし、登場人物の心情や、作者の主張を読み取る力を高める。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語事項（漢字・語句・文法など）の学習を通して語彙を豊かにし、国語の基礎・基本の力を養う。</li> <li>・プリントやワーク、小テストの実施により、漢字・語句・文法問題などの反復練習を徹底する。</li> <li>・音読を実践する。</li> <li>・文学的・説明的文章を読むための基礎的な観点を、教科書の資料や便覧を使って学習し、「読む力」を身に付けさせる。</li> <li>・单元ごと、授業ごとに目標を板書し、身に付けさせたい力や理解させたいことを明確にする。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を通し、個別に指導や助言を行う。</li> <li>・個々の文章（作文や記述など）の添削を行う。</li> <li>・スピーチを計画的に行い、意欲を高める。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークやグループワーク、討論会などの場をできる限り多く設定し、自分の考えを深めさせる。</li> <li>・読書活動を取り入れ、読書の楽しさに気づかせる。（ビブリオバトルやブックトーク、POPの作成、朝読書と連携した「100冊への扉」（読書記録）による読書習慣の形成、学校図書館の利用、司書との連携など）</li> <li>・伝統的な言語文化に親しむために、名文朗読だけでなく、歴史的背景にも留意して、作品世界と対峙させる。</li> <li>・ICT機器やその他資料を用いて、伝統文化に触れる機会を増やし、親しみをもたせる。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に評価評定の説明を行う。</li> <li>・定期考査だけでなく、ノートやプリント、作文等から学習内容を把握し、多角的な評価を行う。</li> <li>・生徒の学習意欲に結び付く評価を研究する。</li> </ul>

<p>社会</p>	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲の高い生徒が多く見られる。</li> <li>・資料から考察を行ったり、自分の考えをまとめて発表したりすることを苦手とする生徒が多い。</li> <li>・話し合いが苦手な生徒も見受けられる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材などを活用し、教科のおもしろさを引き出す工夫を図る。</li> <li>・新聞などを利用し、時事的なことに興味・関心を抱かせ、多角的・多面的な考察に取り組めるよう工夫する必要がある。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発問を重ねながら要点を明示し、板書事項は無駄なく分かりやすいものになるよう工夫する。</li> <li>・小テストやワークシートを利用した作業等を実施して、基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・地図や資料にもよく目を通し、慣れ親しむように努める。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ討論や課題解決学習などを用いて、単元のねらいにせまる。</li> <li>・実物教材の提示や ICT 機器を活用した導入を行うことで生徒の関心を高め、主体性を引き出す。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語活動の充実を図るために、可能な限り、授業内での班ごとの話し合いや、発表、また単元終了時に学習を振り返ってのまとめレポート作成などを取り入れる。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テスト、ノート、レポート、パフォーマンス課題など、様々な学習内容から評価を行う。</li> <li>・年度当初に評価計画を生徒に伝え、生徒の具体的な努力目標を設定しやすくする。</li> </ul>
<p>数学</p>	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算などについて、反復練習に積極的に取り組み、普段の授業にもまじめに取り組める。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の徹底を図るための教材を作成し、計画的に活用する。</li> <li>・基礎知識の定着を図る目的で、小テストを実施する。</li> <li>・2、3年生では習熟度別指導を実施し、よりきめ細かな指導を目指す。</li> <li>・ICT 機器や言語活動など、授業内容に適した教材を使用することで、より理解を深めることを目指す。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた問題などを自力で解決しようとしている。また、必要に応じて他者に質問することで解決しようとしている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な考えを尊重する態度と筋道を立てて考えようとする力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル教科書を使用することにより、グラフや図形をより正確に伝えるようにしていく。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生では三平方の定理の確認、2年生では確率の実験、1年生では正多面体の作成で教科書の付属教材などを用いて、体験的に学ぶ機会を作る。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解き方を発表させることで、生徒の関心をひきだし、数学を活用して考えたり判断したりしようとする機会を増やす。</li> <li>・ICT機器の活用や言語活動などにより、生徒の関心を高める工夫を図る。</li> <li>・発展的な内容を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を育む。</li> <li>・解き方を発表させ、それを傾聴させることで、様々な考えを尊重する態度と筋道を立てて考えようとする力を高める工夫をする。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期テストだけでなく、章末問題のレポート提出、振り返りシート提出、小テストなど日常的な努力の成果を総合的に評価する。</li> </ul>
理 科	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的な事物現象に対する関心があり、観察・実験に意欲的に取り組む。</li> <li>・授業に対して前向きに取り組むが、積極的に発言する生徒が限られている。</li> <li>・実験結果から考察を行い、自らの考えをまとめることを苦手とする生徒が多い。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の目標を板書し、目標の明確化を図る。</li> <li>・図のかき方を工夫し、復習内容を盛り込み板書する。</li> <li>・授業プリントを活用する。小テストを実施することにより、生徒自身が学習内容の理解度を確認できるようにする。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容に沿って、ICT機器を利用する、身近な話題を提供するなど興味・関心を育む。</li> <li>・実体験を重視し、授業では観察・実験を可能な限り実施する。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を、生徒の日常生活と重ね合わせることで、生きた理科の学習となるようにする。</li> <li>・生徒同士での議論を通して考える力を養うとともに知識の定着を図る。</li> </ul>

	<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学的な思考力や表現力を身に付けさせながら、実生活との関連性に気付けるようになることが課題である。</li> </ul>	<p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査や観察・実験における観点別評価を明確にする。</li> <li>授業観察や観察・実験、定期考査、パフォーマンステスト（実技テスト）など、評価の場面を増やすことで、多面的な評価を行う。</li> <li>定期考査だけでなく、観察・実験の様子、ワークシート、提出物などの取り組みも評価項目に加え、総合的に評価する。</li> </ul>
音楽	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢が身に付いている。</li> <li>発問に対し、積極的に答えるなど音楽の授業に意欲的な生徒がいる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱において、マスクを着用していても一人一人が自信をもって声を出せるように、精神面、技能面両方の指導の工夫をはかる。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の授業目標を明確にし、目標達成するまでの学習活動を生徒に提示する。</li> <li>ICT 機器を活用し、生徒にとってわかりやすい資料を提示する。</li> <li>表現するのに必要な音楽の諸要素を捉え、読譜の基本を繰り返し確認し、表現力を高めていく。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>協同的な学習を進め、お互いの意見を交わす活動を繰り返すことにより、クラス全体の前でも自信をもって発表したり、意見を言ったりすることができるようにする。</li> <li>一人一人が主体的に考え、学習を深められるようなワークシートの工夫をする。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌唱の授業では、声をだすことに自信をもてるように個々へのアドバイスを積極的に行っていく。</li> <li>音楽的な見方や考え方を働かせて音楽を味わったり表現したりできるように授業内容の充実をはかっていく。</li> <li>生徒の発達段階に沿った発問を工夫し、考える時間を充実させるとともに、一人一人の考えを発表しやすい環境をつくり、友達の意見に耳を傾けさせるようにする。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実技の評価を項目別に明確にし、改善点について個々に具体的に考えさせる。</li> <li>実技テスト、定期考査、ワークシートの記載内容、授業での活動の様子など、複数の評価材料により総合的に評価する。</li> </ul>

美術	<p><b>【生徒の実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的に作業に取り組んでいる。</li> <li>・1年時に学んだ基礎事項を2・3年で活用できている。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアを発想し、作業にとりかかるまでに時間がかかる。</li> <li>・作品完成までの見通しが立たず作品が完成しない生徒がいる。</li> <li>・説明の時間を短縮するなどのことを行い、作業時間を確保する必要がある。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のねらいや目標を明確にし、プリントや資料集などを使い、わかりやすい説明を心がける。</li> <li>・デザインや工芸など使う用途や場所など多角的な目線を取り入れて考えさせる。</li> <li>・作業計画表を作らせ、毎時間の作業目標、振り返りを行い、次回の制作に活かさせる。</li> <li>・あらかじめ作業内容をまとめたプリントを使い、板書の時間を省き、作業時間にあてる。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校貼り絵など、行事を通じて美術の公共性や周囲に与える影響について考えさせる。</li> <li>・鑑賞など自分の考えや感じたことなどを大事させる。</li> <li>・鑑賞の際、感じたことを文章に置き換える指導を行う。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチを具体的に描かせる。</li> <li>・絵が苦手な生徒には、文章で説明させて内容を補わせる。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で作成した作品やプリントなどを多角的に評価する。</li> <li>・活動前に作品や作業のどの部分が評価にあたるのか、プリント等を使い説明を行う。</li> </ul>
保健体育	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に学習意欲がある。</li> <li>・技能格差がある。</li> <li>・男女共修に抵抗をしめす生徒がいる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・性差や技能差を克服する必要がある。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元やねらいに合わせたウォーミングアップを行う。</li> <li>・ICT機器や、模範演技など、視覚的な資料提示を行う。</li> <li>・簡易化されたゲームでルールを工夫する。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリンピック・パラリンピックなどと関連づけた指導を行う。</li> <li>・生徒同士で教え合ったり、作戦を立てたりする時間を確保する。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えたことを他者に伝える力を育成する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習カードなどで、自分の考えをまとめる時間を確保する。</li> <li>・効果的な発問を行う。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査などにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、習得した知識を応用させて課題解決方法を論じる問題など、バランスに配慮する。</li> <li>・単元や題材などのまとまりごとに、それぞれの実現状況が把握できる段階で評価を行う。</li> </ul>
技術	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に学習意欲があり、理解力もある。技能的に得意不得意の差が見うけられる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野での経験がない生徒に対しての援助をどのように行うかが課題である。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT教材の活用により、視覚的にも分かりやすい授業を行う。</li> <li>・継続的に作業等を通して、体験的な授業を取り入れる。</li> <li>・作業上の安全に対しては実習前に必ず時間を設け、確認を行う。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した内容を日頃の生活の中でどのように活用するかを考える機会を作り、応用する力を養う。</li> <li>・興味をもったことについて深め、調べることを促す。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試行型の教材を用いることで自ら考え、作業できるよう指導を行う。</li> <li>・班学習や発表等をして表現力の育成に努める。</li> <li>・自己評価を通して自ら考え、判断・修正を行う機会を設ける。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で用いたプリントや作品、取り組みなどを多角的に評価する。</li> </ul>
家庭	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まじめに取り組む生徒が多い。経験の有無は生活様式の</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活体験による個人差を補うため、Chromebookで動画を見られるようにするなど、視覚教材を適宜取り入れる。</li> <li>・実習時には細かく点検項目を設定し、点検を通して個々の技能向上を支援する。</li> </ul>

	<p>多様化から個人差が大きい。</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活に活かすことのできる基礎的な生活技術の習得を目指す必要がある。</li> </ul>	<p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の中で、個人の興味・関心に応じた取り組みを設定する。</li> <li>・長期休業中の課題等を通して、学習内容を日常生活へ応用する手順を考える機会を設ける。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製作見本を充実させ、生徒自身で製作手順を考えられるようにする。</li> <li>・単元毎に自己評価や感想等の振り返りの機会を設ける。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の取り組み、ノート点検、課題の提出、作品製作など、様々な項目から総合的に評価する。</li> <li>・評価内容を生徒が把握できるように、製作カード等を用いて個々の学習課題の確認に活用する。</li> </ul>
英語	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に学習意欲が高く、授業にまじめに取り組んでいる生徒が多い。</li> <li>・家庭学習が定着していない生徒が見受けられる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと」や「書くこと」を通して、自らの考えなどを表現し、相手に伝えることに課題がある。</li> <li>・既習事項が定着していない生徒が見受けられる。</li> </ul>	<p><b>【基礎・基本の徹底】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、復習などの家庭学習の充実を図るために、定期的に点検を行う。</li> <li>・適宜小テスト等を実施し、既習事項の定着を図る。</li> <li>・英語の4技能をバランスよく授業に取り入れる。</li> </ul> <p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習段階や興味・関心に合わせ、英語を使った会話を通して自分の考えや気持ちを伝える喜びと、準備をした内容についてクラスで発表させ、達成感を得させることにより、学習意欲の向上につなげていく。</li> <li>・ICT 機器を使い welcome to Tokyo の映像をみせ、日本文化について英語を通して理解できるようにする。</li> <li>・英語を使おうと思えるように ALT とのテストを行う。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領にある、話すこと（やりとり）を伸ばす即興の会話活動を取り入れる。</li> <li>・自分の意見を表現できるような活動を行う。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、ノート、問題集、単語の意味調べ、ワークシート、色々な表現活動、オリジナルな考えなどを総合的に評価す</li> </ul>

		る。
特別の教科 道徳	<p><b>【実態】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情が低い生徒が多く見受けられる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業を通して、日々の生活の中で自己を見つめ、物事を広い視野から考え、人間としての生き方を追及できる道徳性を養っていくことが課題である。</li> </ul>	<p><b>【主体的・体験的な学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な活動や話し合い活動、視聴覚機器を活用するなど工夫をした授業展開を行う。また、生徒一人一人が主体的に考える発問を提示し、道徳性を養うことができる授業展開を行う。</li> </ul> <p><b>【思考力・判断力・表現力の育成】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを活用し、自分なりに考えをまとめ、他者に伝えたり、他者の考えを聞いたりしながら思考力や表現力を育成する。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で書くワークシートや学期ごとの振り返りシートを使って評価を行う。</li> </ul>